

**製品名: アンフィフィシン II ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06838**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC,ICC/IF,ELISA                                |
| 反応性    | マウス、ラット  |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。  |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |   |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量  | 64kDa   |

**抗原情報**

|              |  |
|--------------|--|
| 遺伝子名         | BIN1   |
| 別名           | BIN1; AMPHL; Myc box-dependent-interacting protein 1; Amphiphysin II; Amphiphysin-like protein; Box-dependent myc-interacting protein 1; Bridging integrator 1 |
| 遺伝子 ID       | 274.0  |
| SwissProt ID | O00499   |
| 免疫原          | ヒト Amphiphysin II の C 末端領域から得られた合成ペプチド。  |

**背景**

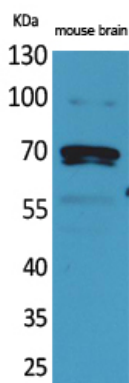
この遺伝子は、核細胞質アダプタータンパク質の複数のアイソフォームをコードしており、そのうちの 1 つは、腫瘍抑制因子として

の特徴を持つ MYC 相互作用タンパク質として最初に同定されました。中枢神経系で発現するアイソフォームは、シナプス小胞エンドサイトーシスに関与し、ダイナミン、シナプトジャニン、エンドフィリン、クラスリンと相互作用する可能性があります。筋肉で発現するアイソフォームと普遍的に発現するアイソフォームは、細胞質と核に局在し、カスパーゼ非依存性のアポトーシス過程を活性化します。マウスを用いた研究では、この遺伝子が心筋の発達に重要な役割を果たすことが示唆されています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。腫瘍細胞株で発現する異常なスプライスバリエーションも報告されています。[RefSeq 提供、2016年3月]、代替製品: 追加のアイソフォームが存在すると思われる、疾患: BIN1 の欠陥は、常染色体劣性中心核ミオパチー (ARCNM) [MIM:255200]の原因です。これは常染色体劣性ミオチューブラーミオパチーとしても知られています。中心核ミオパチーは、主に肢帯、体幹、頸筋の進行性筋力低下と萎縮を特徴とする先天性筋疾患です。遠位筋も影響を受けることがあります。筋力低下は小児期または青年期に現れる場合もあれば、20代まで明らかにならない場合もあります。眼瞼下垂はよく見られる臨床所見です。最も顕著な組織病理学的特徴には、再生に起因しない筋線維の中心核の高頻度存在、中心核周囲の筋小胞ストランドの放射状配列、およびタイプ 1 線維の優位性と低栄養などがある。機能:シナプス小胞エンドサイトーシスの調節に関与している可能性がある。腫瘍抑制因子として作用し、悪性細胞形質転換を阻害する可能性がある。PTM:プロテインキナーゼ C によってリン酸化される。類似性:1 つの BAR ドメインを含む。類似性:1 つの SH3 ドメインを含む。サブユニット:AMPH とのヘテロ二量体。SH3GLB1 に結合します (類似性による)。SH3 ドメインを介して SYNJ1 および DNM1 に結合し、SH3 ドメインの外側の領域を介してクラスリンに結合します。また、AP2A2 にも結合します。MYC の N 末端転写活性化ドメインと相互作用し、保存された MYC ボックス領域 1 および 2 の完全性を必要とする。BIN2 と相互作用する。HCV NS5A の SH3 ドメインを介して相互作用する。組織特異性: 普遍的。脳と筋肉で最も高い発現を示す。アイソフォーム IIA は脳でのみ発現し、軸索起始部とランヴィエ絞輪に集中している。アイソフォーム BIN1 は広く発現し、骨格筋で最も高い発現を示す。、

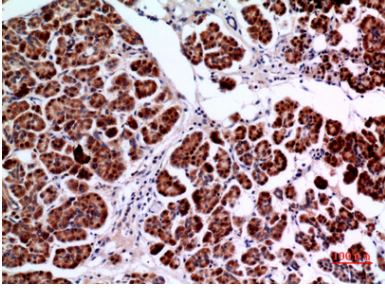
## 研究分野

細胞生物学

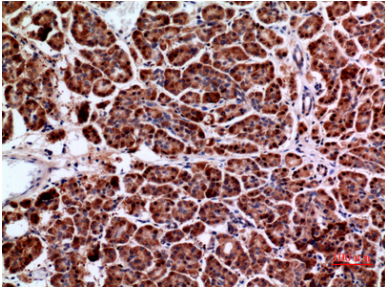
## 画像データ



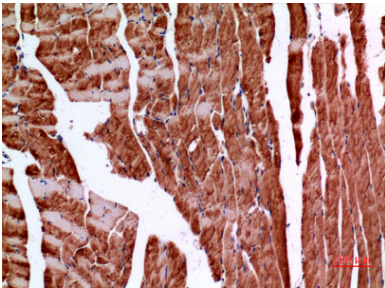
アンフィフィシン II ポリクローナル抗体を用いたマウス脳細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



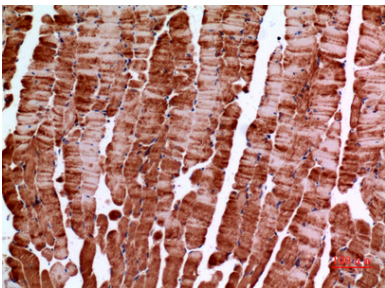
パラフィン包埋ヒト臍臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト臍臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス筋肉の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス筋肉の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された